

# 第9回

## 国際日本学コンソーシアム —グローバル化と日本学—

国際日本学コンソーシアムは、世界の日本学研究の拠点である大学から教員および大学院生を迎えて、国際的・学際的なジョイントゼミを行い、日本学研究および教育の世界的ネットワークを構築するものです。このコンソーシアムの開催により 21 世紀における日本学研究・教育の国際的連携が一層進展し、緊密な協力関係が樹立されるものと確信しています。第9回となる今回は「グローバル化と日本学」をテーマに据え、新たな日本学の確立を目指します。

### —参加校—

ロンドン大学 SOAS (アジア・アフリカ研究学院、英国)  
北京外国語大学 (北京日本学研究センター、中国)  
パリ・ディドロ大学 (フランス)  
リュブリャナ大学 (スロベニア)  
同徳女子大学校 (韓国)  
カレル大学 (チェコ)  
台湾大学 (台湾)  
お茶の水女子大学 (日本)

12月15日(月) 11:00~17:30 交流会 18:00~20:00

16日(火) 9:30~17:30

お茶の水女子大学 文教育学部 1号館 1階大会議室  
／理学部 3号館 2階会議室 マルシェ (交流会のみ)

## ■15日(月)11:00より 文教育学部1号館大会議室 日本文化部会Ⅰ

開会式 《挨拶》羽入佐和子(本学・学長)

世川祐多(パリ・ディドロ大学院生)「近世武家社会の養子から考える女性史」

鄧宜欣(台湾大学院生)「元禄享保期の経済思想—徂徠と春台の思想を中心に—」

和田麻子(本学院生)「18世紀中期における御用木伐出と地域社会—武蔵国秩父郡大滝を事例に—」

クレメン・セニツァ(リュブリャナ大学院生)

“Some thoughts on Western academic representations of the Great Japanese Empire”

芳賀祥子、菊地優美、山田順子、加藤恭子、古結諒子、村山佳寿子(本学院生)

「パネル・ディスカッション 日露戦争はどう語られてきたか～明治末・満州・再生～」

18:00 マルシェにて交流会

## ■16日(火)9:30より 文教育学部1号館大会議室 日本文化部会Ⅱ

石田恵理(本学院生)「グローバル化と日本独自の哲学研究の意義—大森荘蔵の事例から—」

ダーヴィド・ライヒ(リュブリャナ大学院生)「文化的テラスのシンボリズム」

潘蕾(北京外国語大学助教授)「中国狐文化の受容から見る日本人の女性観」

アレシヤ・コスタ(ロンドン大学 SOAS 院生)

“Toko Ishoku and the Reform of the Act on Organ Transplants

in a Medical Anthropological Perspective”

ファビオ・ギギ(ロンドン大学 SOAS 講師)

「国境なしシンドローム? 医療人類学における『文化』による説明の限界を巡って」

## ■16日(火)9:30より 理学部3号館2階会議室 日本文学部会

ウルマン・ヴィート(カレル大学院生)「五山文学で見られるグローバル化の始まり」

浅井美峰(本学院生)「肖柏と池田氏—連歌師と連歌興行主催者について—」

王凱洵(台湾大学院生)「『ねじまき鳥クロニクル』における自我形成をめぐる

—メディアムの存在に視点を—」

ティララ・マルティン(カレル大学准教授)「平安初期物語に見える恋愛のグローバル化」

范淑文(国立台湾大学教授)「日本近代文学作品に語られる作家の異国体験—藤村・漱石の場合—」

ダニエル・ストリューブ(パリ・ディドロ大学准教授)「グローバル化と日本文学の研究

—ミハイル・バフチンの小説論を中心に—」

## ■16日(火)12:00より 文教育学部1号館大会議室 日本語学・日本語教育学

譙燕(北京外国語大学教授)「グローバル化時代における日中語彙交流

—中国語に見られる日本語由来の新語を中心に—」

施建軍(北京外国語大学教授)「中日韓三ヶ国言語の漢字源語比較研究の課題について」

金榮敏(同徳女子大学校副教授)「韓国における日本語学・日本語教育の現状と展望」

江宛軒(台湾大学院生)「存在様態のシテイルについて—格体制の変更から—」

劉賢(北京外国語大学院生)「中国の大学専攻日本語教科書における使役表現の扱いについて

—学習者の産出例との関連をめぐる—」

鄭ミリョン(同徳女子大学校院生)「判断のモダリティ表現について—『と見える』を中心に—」

曹ナレ(本学院生)「日本語教育に役立つ多義記述のための—考察—テクルを例に—」

石井久美子(本学院生)「大正時代の外来語—固有名詞を中心として—」

16:00 全体会

アンドレイ・ベケシュ(リュブリャナ大学教授)「グローバル化と国際日本学：—小国の視点から—」